



アフリカ・サブサハラ地域におけるジェンダー正義と宗教 女性器切除 (FGM) をめぐって

Professor Rogaia Mustafa Abusharaf

Gender Justice and Religion in Sub-Saharan Africa

The Case of Female Genital Mutilation



講演者：ロガイア・ムスタファ・アブーシャラフ

ジョージタウン大学 (カタール・キャンパス)・人類学教授

調査地：スーダン、オマーン、ザンジバル、合衆国、英国など。研究テーマ：移民、人権、ジェンダーなど。
(Professor of anthropology at Georgetown University's School of Foreign Service in Qatar. Fields: Sudan, Oman Sultanate and Zanzibar, the United States, and the United Kingdom. Topics: migration, human rights, gender, diversity and inclusion, social justice and ethnology in Africa, and the Indian Ocean diasporas)

コメンテーター

中村香子 (京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

ケニアの牧畜民サンプルを対象に「女子割礼/女性性器切除」に対する廃絶運動と、それに対する人びとの反応について調査・研究中。論文「スルメイが手にした選択肢 ケニア・サンプル女性のライフコースの変容」『アフリカの女性とリプロダクション』所収、晃洋書房、2016年、など。

宮脇幸生 (大阪府立大学人間社会システム科学研究科)

国家支配に対する周辺社会の抵抗、開発とエチオピア社会の変容、家父長制社会におけるジェンダー秩序と女性のエンパワーメントに関心をもっている。論文「女性性器切除と廃絶運動」『現代エチオピアの女性たち 社会変化とジェンダーをめぐる民族誌』所収、明石書店、2017年、など。

司会 田中雅一 (京都大学人文科学研究所)

使用言語：英語



日時：11月8日 (水曜日) 18:30-20:00

会場：京都大学稲盛財団記念館 3F 318号室

問い合わせ：田中雅一 shakti@zinbun.kyoto-u.ac.jp
主催 京都大学人文科学研究所共同研究班「ウメサオ・スタディーズの射程」
共催 人間文化研究機構基幹研究プロジェクト「現代中東地域研究」上智大学拠点
FGM/C研究会「女子割礼/女性性器切除」の民族誌的研究
多様な選択肢とアフリカ女性の社会的地位」

